

発育性股関節形成不全のスクリーニングと早期予防

日本小児整形外科学会

* 歩行開始後遅診断例「0」へ！

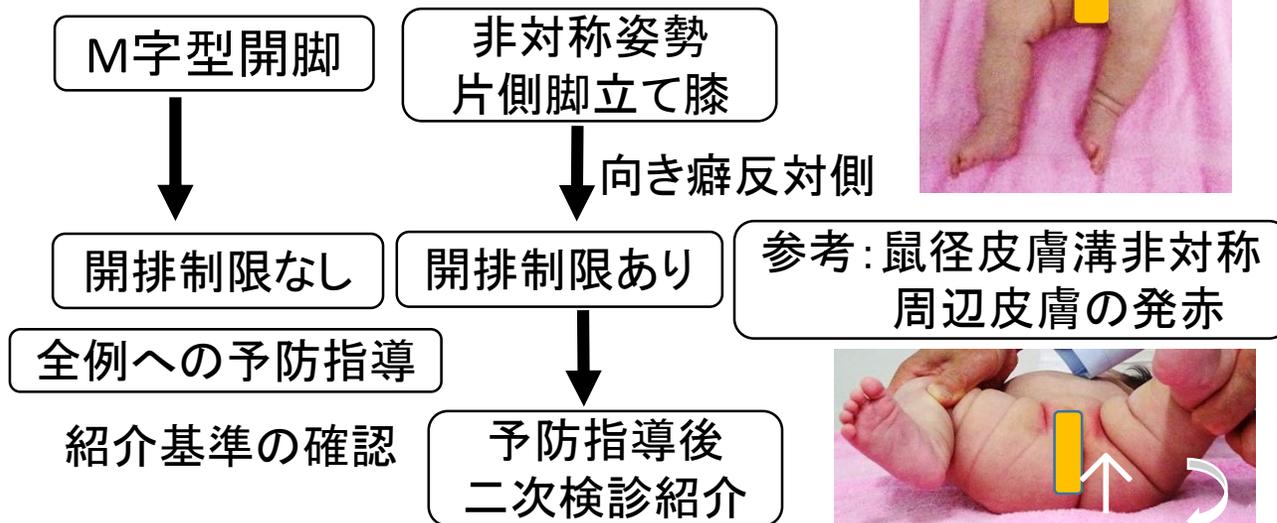
歩行開始後に診断され治療に難渋する例は、10年前と比較して全国的に減少していない

* 推奨項目と二次検診への紹介基準

- ①股関節開排制限→紹介
- ②大腿皮膚溝または鼠径皮膚溝非対称
- ③家族歴 ④女兒 ⑤骨盤位分娩
- ②～⑤ 2項目以上→紹介

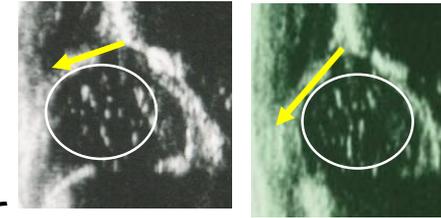
特に母親、母方祖母に家族歴のある女兒

* 股関節開排制限の診かた！



* 早期予防は早期治療

これまでも生まれてすぐからの予防の重要性は言われてきたが近年、超音波画像で早期予防が早期治療になることが明らかになった



初診時大腿骨頭の外側変位による関節唇の上方変位がみられたが、早期予防指導5日後骨頭の外側変位は改善した

* 予防指導のポイント

- ・M字型開脚で両下肢の自由な動きを妨げない
- ・コアラ抱っこ
- ・向き癖による非対称姿勢への対応
- ・長時間の不適切なswaddlingの禁止



* 全例への早期予防で変形性股関節症を減少へ！

人工股関節手術例の多くは臼蓋形成不全が原因で二次検診紹介基準でスクリーニングされない例も多い早期診断には超音波検査が有用！